

経営比較分析表（令和2年度決算）

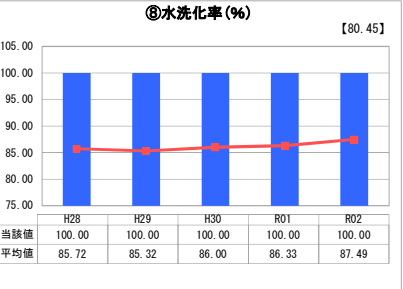
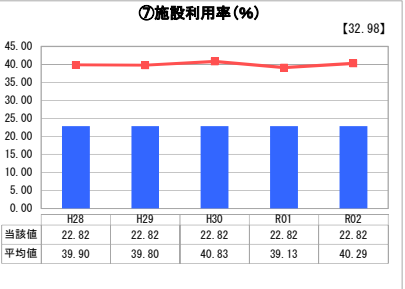
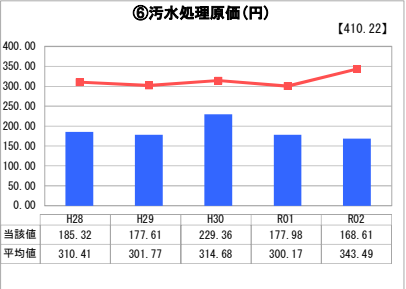
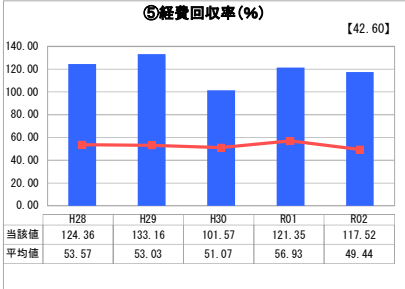
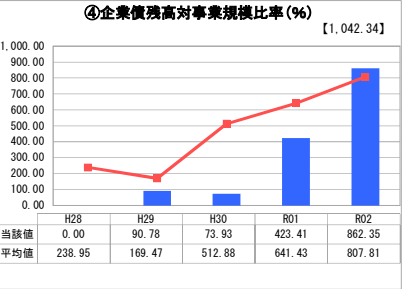
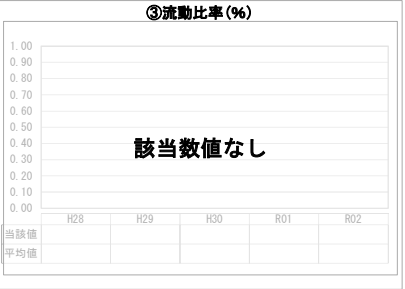
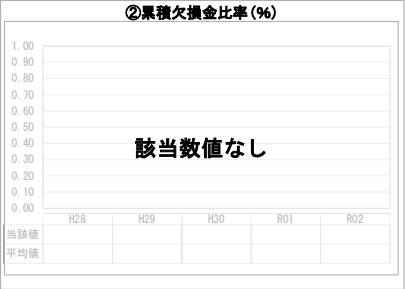
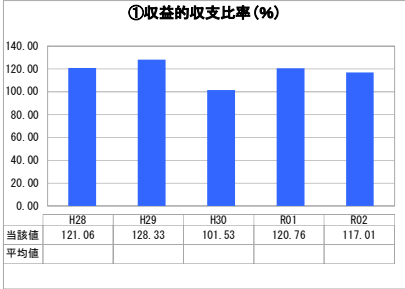
新潟県 粟島浦村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	100.00	64.85	3,960

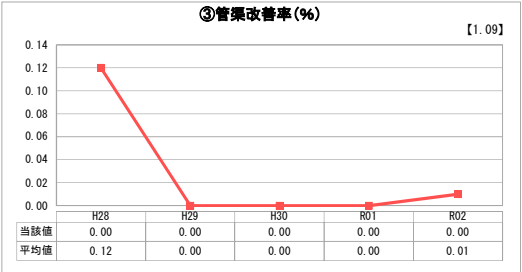
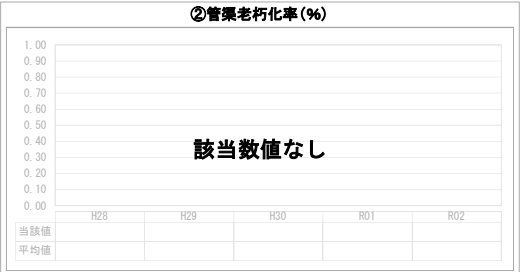
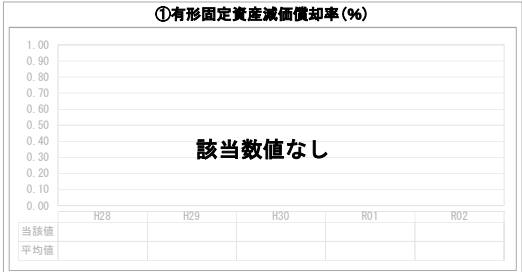
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
344	9.78	35.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
323	0.12	2,691.67

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、毎年度100%を上回っている状況が続いており、令和2年度も117.01%であった。経営状況は健全な水準にあるといえる。

地方債残高は、新たな借り入れにより増加し、類似団体平均値を上回っている。これは排水処理施設の老朽化に伴い、内浦地区の処理施設の更新を行ったためである。

経費回収率も毎年度100%を上回り、類似団体平均と比較しても大きく上回っており、経営に必要な経費を料金収入で賄うことができている。

一方、汚水処理原価は、類似団体平均と比較すれば下回っており緩やかな減少傾向にある。これは施設の維持管理費の減少によるものであるが、今後は老朽化委対策のため費用増加が見込まれ、汚水処理原価は増加すると見込みである。

施設利用率は、過去5年間において同数(22.82%)で推移し、類似団体平均と比較すると低い水準にある。これは、処理区域内人口が減少していることなどによるものであり、今後、汚水処理需要動向によって施設規模の見直しを含めた効率的な事業運営計画を検討する必要がある。

水洗化率は100.0%と高く、投資の効率性が高く、使用料収入が高いことから、効果的な経営が行われている要因の一つとなっている。

2. 老朽化の状況について

地区に1つずつ、計2つの処理施設を抱えており、両排水処理場の施設は、機能診断の上で計画的に整備している。供用開始から30年以上経過していた内浦地区の排水処理場については、令和元年度までに処理場の施設改修及び排水管路改修工事を実施し、令和3年度には施設機能保全工事を完了予定である。

全体総括

粟島浦村は、処理区域内人口323人で、有収水量密度4.0千m³/ha、供用開始後年数(37年)で、下水道事業経営指標における分類では、類型「c1」型に属する。また、下水道は、漁業集落排水事業を営み、水洗化率は100.0%である。

現在、経営の効率性、健全性は概ね確保されているといえる。しかしながら、少子・高齢化の進行や、処理区域内人口、大口利用の民宿の減少等により、排水処理料金収入の減少が見込まれ、維持管理費が増加傾向にあり、更なる経費節減に努めていく必要がある。さらに、各指標の傾向を十分に分析し、資産維持等の対策を講じる必要があり、今後も施設の老朽化に備えた処理場施設等の計画的な更新を行い、健全な事業運営に努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。